

国際化サポート海外留学奨励金 留学報告書

研修名	ディーキン大学 English Language Institute, General English
-----	---

留学費用項目	かかった費用 (円換算)	備考 特記事項があれば記入してください。
食費	90,000 円	
図書費・学用品費	円	
携帯・インターネット費	22,000 円	
現地通学費	14,000 円	(研修先まで 40 分)
教養娯楽費	37,000 円	ツアー、交際費等
被服費	17,000 円	
雑費	円	
その他	30,000 円	例: 日用品、お土産
合計	210,000 円	

渡航準備について

1) 現地通貨(現金)はどのように準備をしましたか
現金の用意方法: 成田空港で 1 万円を換金した
その他用意したもの: ☐ クレジットカード ☒ デビットカード・キャッシュパスポート

2) どの方法での支払いが役に立ったか等があれば記載してください
ほとんどすべての場面でカードを利用することができた。現金はむしろ帰国直前に意識的に使うようにした程度には必要なかったため、1 万円程度事前に換金しておけば十分だと感じた。

3) 現地で使用する通信手段(SIM カード、WiFi)は何を用意しましたか。良かった場合は具体的に記載してください。
ニッテルの e-SIM を契約したため、利用開始の手続きは簡単だった。

4) 日本から準備して行き助かったものや、準備したほうが良かったものはありましたか
大体のものは現地でも揃えることができるため、事前にホームステイ先に連絡を取り、荷物を必要最小限に抑えた方が良いと思う。周囲でも余ったアメニティグッズを滞在先に置いてきている人が多かったため、足りなくなったら買い足す程度の量を持っていくべきだったと感じた。また、日本食は特にレトルトの白米が役立った。

現地情報

1) 活動中、何らかの問題がありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。
(例: 研修の相談窓口、現地の友人等)
☒ なし ☐ あり (問題の内容や相談した人等:)
特記事項:

2) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?
領事館からのメールを定期的にチェックして情報を得た。実際に被害にあったり周囲から話を聞いたりすることはなかったが、対策として治安の悪い地域には近づかない、深夜に繁華街を出歩かない、貴重品を常に携帯することなどを徹底した。

3) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。
契約した e-SIM は現地でも問題なく接続できたが、ギガ数があまり多くないため、結果的に元値と同じくらいの追加料金を支払うことになった。大学や家、シティでは wi-fi を利用することができるが、普段からモバイル通信を頻繁に使用する人に関しては、ニッテル以外の SIM を自分で調べてみるのも良いと思う。

滞在形態関連

1) 留学中の滞在先の種類

☐ 寮・アパート ☒ ホームステイ ☐ ホテル

2) 部屋の形態

☒ 個室 ☐ 相部屋(同居人数 人)

3) 共有部分

☒ バス ☒ トイレ ☒ キッチン(☒ 自炊可 ☐ 自炊不可)

4)感想:(滞在先の感想、これから留学する人のためのアドバイス等)

私の滞在先では、1日のシャワーの利用時間を4～5分程度に抑えるように言われた。他にも門限や夜ご飯の時間などが細かく決められている場合もあるため、日本とは異なる生活になるかもしれないという点は覚えておいてほしい。一方、多少生活の制限はあったが、ホストファミリーは皆優しく、日常生活で英語を使えるという点でも非常に良い体験だったと感じた。

プログラム選択の参考となる点を記載してください

1)研修先授業およびプログラムの良かった点、良くなかった等を記載してください。

ディーキン大学はプレイメントテストの結果に基づいた少人数クラスの授業が充実していた。日本が夏季休業期間であったため、クラスの大半が日本人だったが、英語を学ぶ意欲のある学生が多かった。また、日本以外の国から来た学生と英語でコミュニケーションをとるのも新鮮だった。しかし、授業の内容は普段学部の必修でしていることとあまり変わらず、英語のレベルも易しいため、普段から英語学習やスピーキングに慣れている学生には少し物足りないかもしれないと感じた。

一方で、訪れた移民博物館では、日本人にあまりなじみのない「移民」や「多文化」について学ぶことができ、非常に興味深かった。他にも、週一回の課外授業としてシティの様々な施設を訪問できるので、英語の授業外でもオーストラリアの文化を学ぶ機会が得られた。

2)課外プログラムについて

私は利用しなかったが、休み時間や放課後に英語でゲームなどのアクティビティを行う場が設けられていた。さらに、学生主催のツアーや様々なクラブ活動、イベントなどもあるため、積極的に情報収集すれば大学内だけでも十分楽しく生活できそうだったと思った。

3)現地での生活に関すること

ホームステイ先からシティへのアクセスが良く、週末だけでなく平日の放課後も頑張れば様々な場所に遊びに行くことができた。シティだけでなく、少しローカルなショッピングモールなども現地の人々の生活を感じられて楽しかった。渡航初日に購入する定期券はメルボルンのほとんどすべての場所で利用できるため、公共交通機関を積極的に活用すべきだと思う。個人的に公共交通機関の混み具合や遅延状況は日本と大きくは変わらないと感じたが、十分なアナウンスがされなかったり、されても英語が瞬時に理解できなかったりしたので、ある程度時間に余裕を持って行動した方が良いと思った。

交流等について

1)プログラム内で現地学生等との交流があれば記載してください。

学内での活動にあまり参加していなかったため、現地学生との交流は少なかった。クラスの友人はクラブ活動を通してディーキンの学生と交流できたと言っていたので、そのような交流を求める場合は自発的に学内の活動に参加して知り合いを増やすのが良いと思う。

2)プログラム外で交流等を行った場合、どのようにして交流したか、何をしたか等を記載してください。

異文化体験について

1)日本とは異なると感じた、印象に残る体験があれば紹介してください。

オーストラリアはとにかく土地が広いので、シティにも広い芝生のある公園が多く、都市と自然が共存しているのが印象的だった。また、メルボルンはスポーツや芸術の色が強く、街中にもそのような文化があふれていた。

シティの路上にはホームレスが多く、ドラッグを使用していると思われる人もたまに見かけた。実際に足を運ぶことはなかったが、薬物関連の問題が多発している治安の良くない地域の話も聞いた。メルボルンは文化的で美しい都市だが、物価の高さや人口の多さなどを考慮すると、そこに住まう人々の生活レベルには未だ明確な格差があるのだろうと感じた。

留学体験記

研修や生活全般、今後の学生生活への抱負等、後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。(200字以上)

今回のメルボルン留学では、異国で生活することの意義を肌身で感じる事ができた。
この5週間で最も印象に残ったのは、オーストラリアは多民族・多文化が共生する社会であるということだ。街を歩いていても英語に限らず様々な言語が飛び交い、その多様な文化圏に応じた多様な店や施設がある。同じ島国でこんなにも異なるコミュニティが築かれているという事実には驚きを隠せなかった。
単に海外旅行でも学べることはあるものの、より芯から文化の違いやそれらが作り上げている社会に触れるには、やはり短期間でもその地で生活を送ることが必要だと改めて感じた。
正直、5週間ないし1か月では、劇的に英語力を上げることは難しい。しかし、普段と違う環境で日常的に英語に触れることができ、何よりその地で現地の人々と共に生活するという貴重な体験ができる点で、留学は何にも代えがたいと思う。
現在持っている英語力のレベルに関わらず、初めての海外留学の選択肢の一つとして、私は本プログラムを強くお勧めする。

国際化サポート海外留学奨励金 留学報告書

研修名	ディーキン大学
-----	---------

留学費用項目	かかった費用 (円換算)	備考 特記事項があれば記入してください。
食費	7万 円	
図書費・学用品費	0 円	
携帯・インターネット費	1万 円	
現地通学費	1万 円	(研修先まで 30 分)定期券
教養娯楽費	0 円	
被服費	0 円	
雑費	7万 円	
その他	3万 円	例: ツアー代
合計	19万 円	

渡航準備について

1) 現地通貨(現金)はどのように準備をしましたか

現金の用意方法:
 その他用意したもの: ☒ クレジットカード ☐ デビットカード・キャッシュパスポート

2) どの方法での支払いが役に立ったか等があれば記載してください

基本クレジットカード一枚あれば十分だった。現金は一万円分持って行ったが、スーパー等で使うくらいだった。

3) 現地で使用する通信手段(SIM カード、WiFi)は何を用意しましたか。良かった場合は具体的に記載してください。

eSIM を8GB で用意したが、足りなかった。現地で Google map 等地図アプリを使う機会が多いため多めに見積もっておくとよい。家と学校、シティの中心部に Wi-Fi があるので困ることはなかった。

4) 日本から準備して行き助かったものや、準備したほうが良かったものはありましたか

ウェットティッシュ、 屋食用のタッパー

現地情報

1) 活動中、何らかの問題がありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。
(例: 研修の相談窓口、現地の友人等)

☒ なし ☐ あり (問題の内容や相談した人等:)

特記事項:

2) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？その際どのように対処しましたか？

インターネット、ホストファミリーから

3) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

特に問題なし

滞在形態関連

1) 留学中の滞在先の種類

☐ 寮・アパート ☒ ホームステイ ☐ ホテル

2) 部屋の形態

☒ 個室 ☐ 相部屋(同居人数 人)

3) 共有部分

☒ バス ☒ トイレ ☒ キッチン(☐ 自炊可 ☒ 自炊不可)

4)感想:(滞在先の感想、これから留学する人のためのアドバイス等)
シャワーの時間や、電気の使い方は日本よりもシビアだった。ホストファミリーは女性一人だったが夕食を食べるタイミングでいつも一緒に話をしてくれた。

プログラム選択の参考となる点を記載してください

1)研修先授業およびプログラムの良かった点、良くなかった等を記載してください。
日本人がほとんどの授業なので、英語に自信がなくても楽しく授業を受けることができた。同時に日本人だらけなので海外の人とリアルな英会話をするには自分から動く必要があると思う。学校でツアーやワークショップ等をたくさん設けているのでそれに参加するのが最も手軽だと感じた。
2)課外プログラムについて
メルボルンは市内に観光地が集中しているので毎週末観光することができる。学校などが主催しているツアーに参加すれば少し離れた場所でも観光できる。自然と都市部のバランスの良い環境だった。授業としても週1回遠足があり美術館などに連れて行ってくれる。
3)現地での生活に関すること
公共交通機関などは日本と大きな違いはない。電車、バス、トラムが充実しており不便さを感じることもなかった。治安の悪さも感じることはなかったが、夜街頭が少なく日本よりも暗い。住宅街に入ると同じような景色が続くので、着いてすぐは早めに帰るよう心掛けたほうが良い。

交流等について

1)プログラム内で現地学生等との交流があれば記載してください。
ツアーなどは現地学生が主催してくれるため、メルボルンやオーストラリアについて話を聞くことができた。現地学生や留学生と出会うきっかけを作ってくれる「バディプログラム」を活用すれば現地学生と遊びにいたり、お昼を一緒に食べたりすることができる。
2)プログラム外で交流等を行った場合、どのようにして交流したか、何をしたか等を記載してください。
日本人の友達を通してフィリピンの留学生と一緒に海に行った。みんなでカフェにいたり、美術館にいたりした。

異文化体験について

1)日本とは異なると感じた、印象に残る体験があれば紹介してください。
広い公園が多く、芝生に座って読書をしていたり、ピクニックをしている人をよく見かけた。時間がゆっくり流れているように感じた。また公園ではリードなしで犬の散歩をしている人も多い。 様々な国籍の人がいるため、話す英語のアクセントの違いに触れることができる。現地オーストラリア訛りはもちろん、イタリアンレストランにいけばイタリア訛りを、中国料理を食べに行けば中国訛りを聞くことができた。 またビーガンや宗教など思想も様々なのでレストランやカフェのメニューに原料が細かく書かれており、アレルギーを持っていたとしても安心して食事することができた。

留学体験記

研修や生活全般、今後の学生生活への抱負等、後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。(200字以上)

初めて一か月という期間ホームステイという形で留学したが、オーストラリアは水やトイレ、公共交通機関など日本と近いところが多く、特に不安なく楽しく五週間過ごすことができた。ホストファミリーも積極的に会話をしてくれたり、野生のカンガルーを見に連れ出してくれたのでたくさん英語を話す機会があった。 一方で、授業は日本人がほとんどだったため、他国からの留学生や、現地の学生と関わるタイミングが少なく学校で英語を使うには自分でプログラムに参加するなど積極性が必要だった。 メルボルンは都市部と自然のバランスが良く、観光地もまとまっているため、放課後や土日は積極的に外に出てツアーに参加したり、カフェにいたりすると良いと思う。街を歩いていると現地の人が話しかけてくれることも多いため英語を使う機会も多くなる。 メルボルンは様々な国籍の人と関わるので人と話すことが好きな人ならぜひチャレンジしてみると良いと思う。

国際化サポート海外留学奨励金 留学報告書

研修名	ディーキン大学
-----	---------

留学費用項目	かかった費用 (万円換算)	備考 特記事項があれば記入してください。
食費	約8万 円	
図書費・学用品費	円	
携帯・インターネット費	0.5万 円	
現地通学費	1.2万 円	(研修先まで 60 分)
教養娯楽費	約10万 円	
被服費	円	
雑費	円	
その他	23万 円	例: 航空券(成田〜クアラルンプール〜メルボルン)
合計	約41万 円	

渡航準備について

1) 現地通貨(現金)はどのように準備をしましたか
 現金の用意方法: 非常にキャッシュレス化が進んでいるので、現金を持つ必要ありません
 その他用意したもの: ☐ クレジットカード ☒ デビットカード・キャッシュパスポート

2) どの方法での支払いが役に立ったか等があれば記載してください
 Revolut 海外手数料金が無料かつ管理もスマホ一つで可能です。

3) 現地で使用する通信手段(SIM カード、WiFi)は何を用意しましたか。良かった場合は具体的に記載してください。
 トリファ eSIM

4) 日本から準備して行き助かったものや、準備したほうが良かったものはありましたか
 絞ったらまたすぐに使える速乾タオル(セームタオル)

現地情報

1) 活動中、何らかの問題がありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。
 (例: 研修の相談窓口、現地の友人等)
☐ なし ☒ あり (問題の内容や相談した人等:)
 特記事項: 体調不良

2) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？その際どのように対処しましたか？
 治安は良好です。深夜は若干の注意が必要だと思います。

3) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。
 問題なし

滞在形態関連

1) 留学中の滞在先の種類 2) 部屋の形態

☐ 寮・アパート ☒ ホームステイ ☐ ホテル ☒ 個室 ☐ 相部屋(同居人数 人)

3) 共有部分

☐ バス ☐ トイレ ☒ キッチン(☒ 自炊可 ☐ 自炊不可)

4)感想:(滞在先の感想、これから留学する人のためのアドバイス等) メルボルン日中と夜の気温差が激しく、天気も変わりやすいです。風邪薬やヒートテックは必須です。 加えて水筒やスリッパなどを持ってくと良いと思います 他にホームステイをしていた人々の様子を見てきて言えることとして、ホームステイ先の家族にもよりますが、期待のしすぎは禁物だと思います。
--

プログラム選択の参考となる点を記載してください
1)研修先授業およびプログラムの良かった点、良くなかった等を記載してください。 先生は親切でした。八割は日本人です。学校にいる間はあまり海外にいるという実感が無いと思います。 授業内容はそれほど難易度の高いものではありません。 英語にどっぷりと浸かりたい、日本人がいないところで生活してみたい、という人はここより良い選択肢があると思います。述べた通り、学校には多くの日本人がいるので、放課後や休日を有効活用できるかが重要になると思います。
2)課外プログラムについて グレートオーシャンロード ,100AUD
3)現地での生活に関すること アジア人がかなり多いです。中華系の店も多く日本の物も多く売っています。 物価は日本の3倍近くです。食費、衣料は中でも高くなります。

交流等について
1)プログラム内で現地学生等との交流があれば記載してください。 屋休みに現地学生たちとサッカーをしました。
2)プログラム外で交流等を行った場合、どのようにして交流したか、何をしたか等を記載してください。 屋休みの交流。ジム。晩御飯を一緒に食べに行く。 ただ我々留学生と学生の建物は別であり、そこまで離れているわけでもないのですがアクセスも優れているわけではないので、現地学生と交流する機会はそこまで無いと思います。

異文化体験について
1)日本とは異なると感じた、印象に残る体験があれば紹介してください。 公共交通は基本的に遅れている。ただたまに定刻より早く出ることも多々あった。 また公共交通をはじめとしたサービス全般に言えるが、日本より親切ではない。Ex 電車などはアナウンスや電光掲示板による情報提供が無い

留学体験記

研修や生活全般、今後の学生生活への抱負等、後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。(200字以上)

多分この記録を読んでいる多くの方が、留学について不安や迷いがあると思いますが、ここは是非とも勇気を出して行ってみてほしいです。私自身初めての海外でましてや飛行機に乗ったこともなかったのですが、一人でもなんとかメルボルンにたどり着き、5週間生活できました。むしろ今思い返せば一人で海外で生活したからこそこの学びも多くありました。もちろん様々なトラブルに見舞われました。特にクアラルンプールで飛行機の搭乗券を無くしたときや、体調を崩したときなどは大変でした。しかし海外での生活自体はもちろん、海外で作った新しい友達、綺麗な景色、美味しい食事、等々挙げたらきりが無い程の素晴らしい経験や、思い出が作れました。日本にいたら経験のできないようななにかがきっとあります。僕自身留学に行けて大変良かったと思っています。私は長期のプログラムには参加ができなかったのですが、もし時間に余裕があるのであれば是非とも参加すべきだと思います。なるべく早く動き出すことが肝心です。学部自体があまり国際系でないなら尚更です。是非たくさん調べて準備して、素敵な留学をしてください！
--